

(大正五年四月六日第三種郵便物認可) 昭和十二年八月廿五日印刷納本(毎月一回一日發行)

哲學研究

第二十二卷 第九冊

第二五百八十八號

昭和二十二年九月一日發行

美の深さ(承前) 文學博士 植田 壽藏

宗教的自覺(承前) 文學士 片山 正直

物理的世界内に於ける個體性と交互作用...

..... 文學士 眞方 敬道 譯
ルイ・ド・ブロイ

京都帝國大學文學部

京都哲學會

京都哲學會規則

- 第一條 本會ヲ京都哲學會ト稱ス
- 第二條 本會ハ廣義ニ於ケル哲學ノ研究及其普及ヲ以テ目的トス
- 第三條 本會ハ前條ノ目的ヲ達センガ爲メ左ノ事業ヲ行フ
- 一、毎月一回研究會ヲ開ク
- 一、毎年公開講演會ヲ開ク
- 一、毎月一回哲學研究ヲ發行ス
- 第四條 本會事務所ヲ京都帝國大學文學部内ニ置ク
- 第五條 本會ノ事業ヲ經營スル爲メニ左ノ役員ヲ置ク
- 一、委員(若干名)京都帝國大學文學部哲學科教官及委員會ニ於テ推薦シタル者ヲ以テ之ニ充ツ
- 一、書記(一名)委員會ニ於テ囑託ス
- 第六條 本會ノ趣旨ニ賛同スル者ハ何人ニテモ會員タルコトヲ得
學校、圖書館、教育會、其他ノ團體ハ其團體ノ名ヲ以テ入會ス
ルコトヲ得
- 第七條 會員ハ會費トシテ年四圓四拾錢、前後二期ニ分チテ前納
スベキモノトス
- 第八條 會員ハ本會ノ諸種ノ會合ニ出席スルコトヲ得、且ツ雜誌
『哲學研究』ノ配付ヲ受ク
- 第九條 本會規則ノ改正變更ハ委員會ノ決議ニ依ル

京都哲學會役員

委員

文學博士	天野	貞祐
文學士	岩井	勝二
文學博士	植田	壽藏
文學士	臼井	二尚
文學博士	小島	祐馬
文學博士	木村	素衛
文學博士	九鬼	周造
文學博士	田邊	元一
文學士	中井	正一
文學士	西谷	啓治
文學博士	野上	俊夫
文學博士	羽溪	了諦
文學博士	波多	野精一
文學士	服部	英次郎
文學士	久松	眞一郎
文學博士	本田	義英
文學博士	山内	得立

前 號 目 次

美の深さ (承前) 文學博士 植田壽藏

原始インド・アールヤ人の思潮とアタルヴァ・ヴェーダ 文學士 岩本裕

カントの先天總合判斷の最高原則について (承前) 文學士 大西友太

量子論の諸問題 理學士 湯川秀樹

原子論に於ける因果律 理學士 ニールス・ボーア
武谷三男譯

會告

- 一、本會へ入會希望者ハ京都市西洞院七條南内外出版印刷株式會社内京都哲學會宛テニ規定ノ會費(前表紙裏ニアリ)御納付ノ上御申込被下度候
- 二、會員ニテ轉居入退會等(編輯事務以外ノ一切)ノ事務ハ内外出版印刷株式會社内京都哲學會へ御通知被下度候
- 三、會費ハ振替口座大阪三〇六六三番 内外出版印刷株式會社内京都哲學會宛テニ御拂込被下度候
- 四、前金切レノ場合ハ帶封三(前金切)ノ印章捺捺致スベキニ付直ニ御拂込下サレ度候
- 五、本誌ノ編輯ニ關スル通信及紹介・新刊書・寄贈雜誌等ハ凡テ本會宛テニ御發送被下度候

京都帝國大學 文學部内 京都哲學會

註文規定

- ◆ 會員にあらざる購讀者の御註文及び廣告に關する件は内外出版印刷株式會社へ御申込下され度候
- ◆ 本誌の御註文はすべて代金郵税共前金にて御送り下され度候
- ◆ 振替貯金にて御送金の際は(振替京都三九三一番大阪三九三一番東京三九三一番) 内外出版印刷株式會社宛に願上候
- ◆ 特に請求書及領收書等を要する場合ハ郵券參錢御送付下され度候

定價

冊數	定價	價目	郵税
一冊	金四拾錢	金壹	錢
六冊(前金)	金貳圓四拾錢	不	受
十二冊(前金)	金四圓八拾錢	不	受

廣告料

一頁 金參拾圓 半頁ハ取扱不申

昭和十二年八月廿五日印刷納本 第二百五十八號 第二十二卷 昭和十二年九月一日發行

京都帝國大學文學部内

編輯者 京都哲學會

右代表者 服部英次郎

發行者 須磨勘兵衛

印刷者 須磨勘兵衛

印刷所

内外出版印刷株式會社

發行所

京都市下京區西洞院七條南

内外出版印刷株式會社

振替口座 京都三九三一番 大阪三九三一番 東京三九三一番

本社 京都市下京區西洞院通七條南入 内外出版印刷株式會社

賣捌所

(東京) (大阪) (神戸) (京都)

寶隆文館 寶隆文館 寶隆文館 寶隆文館

東京堂 東田屋 川瀬書店 大盛社

東海堂 參文社

田邊元博士監修

土井虎賀壽著



ヒューム

(西哲叢書
第十一編)

四六版クロス製
約二一九〇頁
コロタイプ印刷一葉
價一・三〇 税・二四

獨斷のまじり、みからカントを覺醒させたヒュームは、その故をもつて直ちに懷疑的だとされる。併しヒュームは奇矯な懷疑論者たるには餘りに穩健であり、悲劇的な懷疑主義者たるには餘りに平常であつた。ヒュームの懷疑は、大陸の知性とロブスの存在理由を破壊して感情と想像に基づけられた人間學を確立する爲の方法に外ならなかつた。何等のロブスの根據なくして而も最も自然に且つ最も強力に人間生活を支配する「慣習」の效果「彼の決定的な問題であつた。そしてこれは直ちに英國的傳統の哲學的基礎づけでなければならぬ。著者は哲學的關心の下に、このヒュームによつて確立された「慣習」の法則「即ち人間生活に於ける物質性」は存在性を、——存在と本質との力學的統一に立脚しようとするゲシュタルト心理學及「スピノザ・ニイチエ」の人間學に對質せしめようと試みた。

野田又夫著



デカルト

(西哲叢書
第七編)

四六版クロス製
約三三〇頁
コロタイプ印刷一葉
價一・三〇 税・一四

近世精神に始めて自覺の光を點じた人としてデカルトの名は周知である。本年は其著「方法敎訓」出版より三百年に當り記念の祝典ありしと聞く。實に三百年間近世は彼の拓いた途を歩み、内に精神の自覺を持し外に自然の合理化を徹し來つた。唯しかし、ひとごとと一方面に悟性を得て進むの易きに於て、當初の方向決定の困難を忘れた嫌ひなしといはれぬ。デカルトの思想が阿語のにのみ語られ、其證煩多くして理解少なかつた所以である。然るに今や事情は恰も彼の精神生成の時期に酷似して來た。新たな秩序を聞く決意の要求されること今日に過ぎたるはない。今にして此哲學者の創始の業にこめられた嚴格なる自己操持を學ぶこと、何人も意義なしとせぬ所であらう。

(大正五年四月六日)昭和十二年八月廿五日印刷納本(毎月一回)
(第三種郵便物認可)昭和十二年九月一日發行(一日發行)

哲學研究 第二百五十八號 定價金四拾錢 郵税金壹錢

九〇九三五京東振・臺河駿田神京東
五二三一 都京振・町浦西中田都京

弘文堂

